

JENESYS 2.0 及び北米地域との青少年交流

韓国青年訪日研修団 1～3 団

訪問日程 平成 25 年 7 月 30 日 (火) ～8 月 8 日 (木)

1. プログラム概要

JENESYS2.0 の一環として、韓国の在外公館から選抜された韓国の高校生、大学生で構成された韓国青年訪日研修団 1、2、3 団計 90 名が来日し、7 月 30 日から 8 月 8 日までの 9 泊 10 日の日程で研修を行いました (1 団団長：崔京国 (チェ・ギョングク) 明知大学校教授、2 団団長：趙大夏 (チョ・デハ) ソウル女子大学校教授、3 団団長：金生培 (キム・センベ) 順天江南女子高等学校教諭)。一行は、「日本を感じる」という研修テーマの下、滞在中、広島県安芸太田町でホームステイを行ったほか、学校訪問や企業訪問、文化体験を通して日本の魅力を体感しました。

2. 日程

7 月 30 日 (火)

成田国際空港着

31 日 (水)

オリエンテーション、講義、外務省訪問、浅草見学

8 月 1 日 (木)

【第 1 団】東洋大学訪問、【第 2 団】目白大学訪問、

【第 3 団】三鷹の森ジブリ美術館見学、日本科学未来館見学、茶道体験

2 日 (金)

広島県へ移動、宮島・厳島神社見学

3 日 (土)

広島平和記念資料館見学、平和記念公園訪問、安芸太田町へ移動、歓迎セレモニー (町長表敬、町概要説明等)、歓迎神楽観覧、灯籠絵付け体験、夏祭り体験

4 日 (日)

対面式、ホームステイ

5 日 (月)

【第 1・2 団】安田女子大学訪問、【第 3 団】広島県立加計高等学校訪問、大阪へ移動

6 日 (火)

江崎グリコ株式会社訪問、お好み焼き作り体験、大阪城見学

7 日 (水)

京都へ移動、浴衣着付け体験、友禅染体験、清水寺見学、訪日研修団報告会

8 日 (木)

関西国際空港より出国

3. 写真

	
<p>(日本語) 7月30日 講義 (国士舘大学青柳寛教授) (都内)</p>	<p>(日本語) 7月30日 外務省訪問 (都内)</p>
<p>(母国語) 7월 30일 강의 (코쿠시간대학 아오야기히로시 교수님) (도내)</p>	<p>(母国語) 7월 30일 외무성방문 (도내)</p>
	
<p>(日本語) 8月1日 1団大学訪問 (東洋大学) (都内)</p>	<p>(日本語) 8月1日 2団大学訪問 (目白大学) (都内)</p>
<p>(母国語) 8월 1일 1단 대학방문 (도요대학) (도내)</p>	<p>(母国語) 8월 1일 2단 대학방문 (메지로대학) (도내)</p>
	
<p>(日本語) 8月1日 3団 日本科学未来館</p>	<p>(日本語) 8月2日 厳島神社見学 (広島県)</p>

<p>見学 (都内)</p>	<p>廿日市市)</p>
<p>(母国語) 8 월 1 일 3 단 일본과학미래관 견학(도내)</p>	<p>(母国語) 8 월 2 일 이쓰쿠시마신사견학 (히로시마현하쓰카이치시)</p>
	
<p>(日本語) 8 月 3 日 広島平和記念公園 (広島県広島市)</p>	<p>(日本語) 8 月 4 日 安芸太田町での歓迎神楽観覧 (広島県山県郡)</p>
<p>(母国語) 8 월 3 일 히로시마평화기념공원 (히로시마현히로시마시)</p>	<p>(母国語) 8 월 4 일 아키오타정에서의 환영가구라 관람(히로시마현야마가다군)</p>
	
<p>(日本語) 8 月 4 日 安芸太田町でのホームステイ対面式 (広島県山県郡)</p>	<p>(日本語) 8 月 5 日 ホストファミリーと集合写真 (広島県山県郡)</p>
<p>(母国語) 8 월 4 일 아키오타정에서의 홈스테이대면식(히로시마현야마가다군)</p>	<p>(母国語) 8 월 5 일 호스트페밀리와의 집합사진(히로시마현야마가다군)</p>
	
<p>(日本語) 8 月 5 日 1・2 団大学訪問 (安田女子大学) (広島県広島市)</p>	<p>(日本語) 8 月 5 日 3 団学校訪問 (広島県立加計高校) (広島県山県郡)</p>
<p>(母国語) 8 월 5 일 1・2 단 대학방문</p>	<p>(母国語) 8 월 5 일 3 단 학교방문(히로시마</p>

(야스다여자대학)(히로시마현히로시마시)	현립가케고등학교)(히로시마현야마가타군)
	
(日本語) 8月6日 企業訪問 (江崎グリコ株式会社)(大阪府大阪市)	(日本語) 8月7日 文化体験 (友禅染体験)(京都府京都市)
(母国語) 8월 6일 기업방문(에자키글리코 주식회사)(오사카부오사카시)	(母国語) 8월 7일 문화체험(유젠염색체 험)(교토부교토시)

4. 参加者の感想

○ホームステイに関して

- ・日本の社会、生活について直接知ることができる貴重な体験だった。
- ・家族のように迎え入れてもらえ、安芸太田町が第二の故郷のように感じられるようになったこと。
- ・ホストファミリーと触れ合ったことで日本人には本音と建前があるという偏見を捨てられたこと。
- ・日本のお父さん、お母さんができたこと。一生仲良くしていきたい出会いで、別れるとき涙がでた。
- ・昔話をたくさんしてくれ、昔の日本が目浮かぶようだった。
- ・山の上でバーベキューをしてくれたこと。
- ・薪割をしてかまどにくべる貴重な体験ができたこと。
- ・ホストファミリーが事前準備を本当にしっかりしてくれ、情熱あふれる受け入れをしてくれたこと。
- ・絆の精神を学べたこと。

○学校訪問に関して

- ・国家の壁を越えて一つの問題について意見を言い合うことができたこと。
- ・交流後も SNS などで繋がる友人になれたこと。
- ・交流会では一生懸命片言の言葉やジェスチャーで会話してくれたこと。
- ・同年代の友人を作れたこと。
- ・日本の学校生活をじかに体験できたこと。
- ・お互いの文化によって両国が一つになれると感じ(好きな芸能人の話などを始めたら、すぐに近づけた)、文化のパワーを感じた。

○伝統、文化、自然に関して

- ・ジブリ美術館、青柳教授の講演で現代文化、茶道や神楽によって伝統文化を体験できたこと。

- ・浅草では寺を見学して日本の伝統文化に触れられたこと。
- ・茶道体験では目に見える作法だけでなく、心の持ちようも学べた。(忍耐や礼儀、謙虚さや配慮の心)
- ・厳島神社の見学では日本の宗教文化を学べたこと。
- ・原爆ドームで平和の大切さを学べたこと。
- ・安芸太田町の自然を保全しながら、その自然に合わせて暮らしている様子に感銘を受けた。
- ・自然を愛する日本人の心に感銘を受けた。

○その他

- ・このような研修が存在するという事はすなわち、政府が民間交流を通じて日韓の関係を改善しようと努力しているということである。今回の研修でそれを知ることができてよかった。
- ・やはり人との出会いが一番の収穫だった。
- ・韓国人のいう「情」と日本人のいう「絆」は同じものであると感じたこと。
- ・日本と友好関係を築きたいという自分の考えに自信が持て、ひいては自分のアイデンティティに自信が持ててよかったこと。
- ・お別れの場面で日本人は誰もが、車が見えなくなるまで見送ってくれたこと。
- ・何よりも人との出会いが一番のいい思い出になるということ。
- ・今までは日本の文化、食生活など表面的な部分のみを知っていたが、今回の研修で「人」を知ることができたこと。

○人間性について

- ・日本人の親切さ。
- ・困ったことが起きたとき、全力で解決に協力してくれた点。
- ・細かいことにととてもよく気を遣える国民性。
- ・話すときに微笑みかけてくれる優しさと気遣い。
- ・あいさつや感謝や謝罪の言葉をよくかわすことに感心した。
- ・親切さを肌で感じ、どんな教育を受けたらこうなるのか、と感心した。
- ・店の人がみんなとても親切でマナーがよくて、こちらがかしこまってしまうほどだった。
- ・困難にぶち当たってもどうにかして克服していく日本人の姿勢に感嘆した。(原爆ドームの見学と東日本大地震からの復興を垣間見て)

◆自国の人に伝えたいこと

- ・今回のような研修があることを広く宣伝して多くの人が自分のような、有益でありお金で買えない体験をできればよいと思う。
- ・日本人の考え方や民間交流の重要性、そして我々がしている誤解について人々に伝え、解いていきたい。
- ・この研修を通じて日本人のもてなしに、温かい感謝の気持ちをもった。このような「気持ち」を帰国後韓国人たちに広く伝えていきたい。それがこの研修に参加した「ジャパンリポーター」の役割だと思う。
- ・日本人の優しさ、誠実さ、情、情熱などを伝えていきたい。

- ・日本の J-POP やアニメが好きな人たちに、日本に実際に来て研修を体験したら、日本の美しい文化、伝統文化、和食、最先端の技術・知識などに関心が向くようになる、ということを伝えたい。
- ・思いやりを持って助け合いながら生活している部分を見習いたい。
- ・訪日前にあった反感が、研修を通して友好的に変わり、日本を再訪したいと思うようにさえなったことを人々に伝え、人々の間違った偏見を正していきたい。
- ・都市に人口が偏ることが多いこのご時世に、故郷を愛し、村を積極的に広報しようとする姿勢に感銘を受けた。学ぶべきところだと思う。
- ・日本料理を作る体験などをした感動を伝えたい。
- ・交通手段として自転車をよく利用することを見習ったほうがよい。エコだし、自然環境にもやさしい、いい習慣だと思う。
- ・メディアで流れている日本の嫌韓のイメージは偏っているものであって、実はみんなやさしくてよい人であること。
- ・(専攻分野であるにもかかわらず) 日本語や日本に興味を失いかけている友人に、日本の重要性を伝えたい。
- ・マスコミに惑わされることなく、また色眼鏡をかけずに日本を見てほしいと伝えたい。
- ・日本のいい点を友人に知らせたい。
- ・自分がこの研修を願ってそれが実現したように、心をこめて願えば通じるものだという事を伝えたい。
- ・今韓国で出回っている東日本大地震に関する放射能関係のデマが真実でないこと。
- ・一番心に残ったホームステイのことを友人に話したい。
- ・日本の隠れた魅力を帰国して友人や周辺の人たちに発信したい。
- ・原爆ドームを見学して、日本が痛みを知り、平和を願っている国だということを知った。そのことを自国の人々に伝えたい。

